

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 08301760 A
(43) Date of publication of application: 19.11.1996

(51) Int. Cl A61K 31/44

A61K 31/44, A61K 7/00, A61K 7/48, C07D213/80, C07D213/81

(21) Application number: 07111806

(22) Date of <DD> 10.05.1995

(71) Applicant: SHISEIDO CO LTD

SHUDO KOICHI

(72) Inventor: FUJII SEISHIROU

HORII IZUMI

EHAMA RITSUKO

SHUDO KOICHI

(54) SKIN PREPARATION FOR EXTERNAL USE

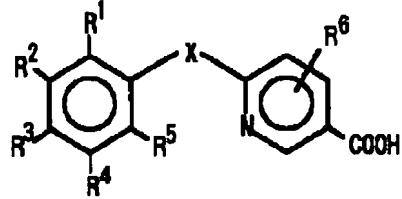
(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a skin preparation for external use, containing a nicotinic acid derivative having retinoic acid-like activity, exhibiting excellent skin aging preventing action and high stability and safety and having little transcutaneous absorbatibility and side effect.

compound has the action to prevent the light injury of the skin with sunlight and the skin deterioration such as the wrinkling, sagging and the loss of gloss caused by aging, the deterioration of skin can be prevented and the skin can be kept in a healthy state by applying the agent in the daily treatment of the skin of after the exposure to sunlight. The agent can be prepared in the form of solution emulsion, ointment, dispersion, aerosol, etc.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

CONSTITUTION: This skin preparation contains compound of formula (R¹ to R⁵ are each H, a 1-6C alkyl, OH, a halogen or a 1-6C alkoxy; X is NH-CO or CO-NH; R⁶ is H, a 1-6C alkyl, OH, a halogen or a 1-6C alkoxy), e.g. 6-(3,4- diethylphenylcarbamoyl)nicotinic acid as an active component in an amount of 0.005-5wt.% based on the total skin preparation. Since the



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-301760

(43)公開日 平成8年(1996)11月19日

(51) Int.Cl. ⁶ A 61 K 31/44 C 07 D 213/80	識別記号 ADS ADA 7/00 7/48	庁内整理番号 F I A 61 K 31/44 C 07 D 213/80	技術表示箇所 ADS ADA D 7/00 7/48
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁) 最終頁に統く			

(21)出願番号 特願平7-111806

(22)出願日 平成7年(1995)5月10日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(71)出願人 000182432

首藤 紘一

東京都杉並区下高井戸5-9-18

(72)発明者 藤井 誠史郎

東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会
社資生堂内

(72)発明者 堀井 和泉

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 今村 正純 (外1名)

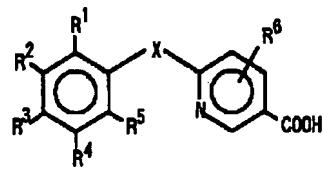
最終頁に統く

(54)【発明の名称】 皮膚外用剤

(57)【要約】

【構成】 下記の式 (式中、 R¹, R², R³, R⁴, R⁵, 及びR⁶は
それぞれ独立に水素、 C₁₋₆アルキル基等を示し、 X は-N
H-CO- 又は-CO-NH- を示し、 R⁶は水素、 C₁₋₆アルキル基
等を示す) で示される化合物を含む皮膚外用剤。

【化1】

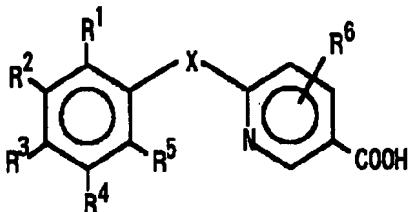


【効果】 優れた皮膚劣化防止作用を有し安定で経皮吸
収が少なく安全性が高い。また容易に代謝されるのでレ
チノイド作用による副作用が少ない。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記の式：

【化1】



(式中、R¹, R², R³, R⁴, 及びR⁵はそれぞれ独立に水素、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子又はC₁₋₆アルコキシ基を示し、Xは-NH-CO-又は-CO-NH-を示し、R⁶は水素、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子、又はC₁₋₆アルコキシ基を示す)で示される化合物を含む皮膚外用剤。

【請求項2】 皮膚劣化防止作用を有する請求項1に記載の皮膚外用剤。

【請求項3】 上記化合物が実質的に経皮吸収されない化合物である請求項1に記載の皮膚外用剤。

【請求項4】 局所的及び/又は全身的細胞障害性が軽減された請求項1に記載の皮膚外用剤。

【請求項5】 請求項1に記載の化合物を有効成分として含む外用の皮膚劣化防止剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は皮膚外用剤、特に皮膚劣化防止作用を有する皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 日光照射による光障害、あるいは加齢に伴う皮膚のしわ、たるみ、つやの消失等の皮膚劣化を防止するため、各種皮膚外用剤が用いられている。このような皮膚外用剤には、日光などの外的要因より皮膚を保護する成分や、皮膚それ自体に作用して皮膚の活性を促す成分などが配合されている。後者の作用を有する有効成分として、ビタミンA又はその誘導体が注目されている。

【0003】 ビタミンAの活性代謝産物であるレチノイン酸（ビタミンA酸）が標的細胞の特異的レセプターに結合して生理作用を示すことが知られており、このレセプター（レチノイドレセプター）に結合してレチノイン酸様作用を示す化合物は、一般的にレチノイドと総称されている。また、レチノイドは、視覚調節作用、成長促進作用、生殖作用など種々の作用を有しており、特に、皮膚に対して正常な分化と維持に重要な機能を果たしていることが知られている。ビタミンAやいくつかのレチノイドを含む皮膚外用剤が皮膚劣化防止の目的で局所的に用いられることがある。しかし、実際にレチノイドによって皮膚の粗ぞう、乾燥化、毛孔性角質増殖等が抑制されるかどうか、あるいは、レチノイドが皮膚劣化防止に有効かどうかは不明である。

【0004】 一方、上記の目的で使用されることがあるレチノイドは、一般に脂溶性が高いという特徴を有しており、外用剤として適用した場合に皮膚から体内に速やかに吸収（経皮吸収）されてしまい、目的とする局所作用（皮膚劣化防止作用）以外にレチノイド過剰症などの全身的な副作用を伴う場合があった。また、これらのレチノイドは局所や生体内で容易に分解されず、細胞障害による副作用を惹起する場合があり、皮膚劣化防止の目的での適用には多くの制限があった。

【0005】 一方、レチノイド作用を有する化合物として、特開昭61-22047号公報、特開昭61-76440号公報に記載された安息香酸誘導体が知られている。また、特開平6-263702号公報、欧州特許公開第617020-A1、及びPCT国際公開W0 93/6086号には、レチノイド作用を有するピリジンカルボン誘導体が開示されている。特開平6-263702号公報及び欧州特許公開第617020-A1に開示されたピリジンカルボン酸誘導体については、抗骨疾患剤としての有用性も知られているが（特開平7-17854号公報）、上記のいずれの刊行物にもこれらの誘導体が皮膚劣化防止作用を有することは示唆ないし教示されていない。

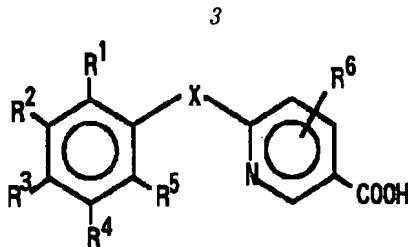
【0006】 PCT国際公開W0 93/6086号に開示されたピリジンカルボン酸誘導体については、皮膚疾患の治療に有用であることが同刊行物に教示されているが、これらの誘導体が皮膚劣化防止作用を有することについては示唆ないし教示がない。また、これらのピリジンカルボン酸誘導体は、5,5,8,8-テトラメチル-5,6,7,8-テトラヒドロナフチル基あるいは3-アダマンチルフェニル基を有するものであり、極めて脂溶性が高いという特徴がある。

【0007】 【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、優れた皮膚劣化防止作用を有する皮膚外用剤を提供することにある。より具体的には、レチノイン酸作用を有する化合物を有効成分として含み、細胞障害性が軽減された上記皮膚外用剤を提供することが本発明の目的である。また本発明の別の目的は、優れた皮膚劣化防止作用を有し、かつ、レチノイド過剰性などの全身的な副作用のない皮膚外用剤を提供することにある。

【課題を解決するための手段】 本発明者は上記の課題を解決すべく鋭意努力した結果、レチノイン酸様の活性を有する下記式のニコチン酸誘導体が、極めて優れた皮膚劣化防止作用を有していることを見いだした。また本発明者らは、これらの化合物が比較的親水性であり、経皮吸収性がほとんどないという特徴を有していること、並びに、皮膚や生体内で容易に分解されるので局所的及び全身的な細胞障害性が著しく軽減されていることを見出した。本発明は上記の知見を基にして完成されたものである。

【0008】 すなわち本発明は、下記式：

【化2】



(式中、R¹、R²、R³、R⁴、及びR⁵はそれぞれ独立に水素、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子又はC₁₋₆アルコキシ基を示し、Xは-NH-CO-又は-CO-NH-を示し、R⁶は水素、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子、又はC₁₋₆アルコキシ基を示す)で示される化合物を含む皮膚外用剤を提供するものである。

【0009】上記本発明の好ましい態様によれば、皮膚劣化防止作用を有する上記皮膚外用剤；上記化合物が実質的に経皮吸収されない化合物である上記の皮膚外用剤；及び、局所的及び／又は全身的細胞障害性が軽減された上記の皮膚外用剤が提供される。また、本発明の別の態様によれば、上記の化合物を有効成分として含む外用の皮膚劣化防止剤が提供される。

【0010】本発明の皮膚外用剤に含まれる上記化合物において、R¹、R²、R³、R⁴、及びR⁵は、それぞれ独立に、水素、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子又はC₁₋₆アルコキシ基を示す。C₁₋₆アルキル基としては、直鎖または分枝アルキル基のいずれを用いてもよく、より具体的には、メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基、n-ペンチル基、イソペンチル基、ネオペンチル基、又はn-ヘキシリ基などを用いることができる。これらのうち好ましくは、エチル基、イソプロピル基、またはtert-ブチル基を用いることができる。C₁₋₆アルコキシ基としては、直鎖または分枝アルコキシ基のいずれを用いてもよく、より具体的には、メトキシ基、エトキシ基、n-ブロボキシ基、イソブロボキシ基、n-ブトキシ基、sec-ブトキシ基、tert-ブトキシ基などを用いることができる。ハロゲン原子としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、またはヨウ素原子のいずれを用いてもよい。

【0011】このような化合物のうち、例えば、上記R¹、R²、R³、R⁴、及びR⁵から選ばれる隣接又は非隣接の2つの置換基が同一又は異なるアルキル基である化合物は、本発明の外用剤の成分として好ましい化合物である。例えば、R²とR³、またはR²とR⁴がともにアルキル基である化合物が好ましい。このような化合物のうち、アルキル基がエチル基、イソプロピル基、またはtert-ブチル基である化合物がより好ましく、R²及びR³がともにエチル基である化合物、R²及びR⁴がともにtert-ブチル基である化合物が特に好ましい。

【0012】R⁶は水素原子、C₁₋₆アルキル基、水酸基、ハロゲン原子、又はC₁₋₆アルコキシ基を示す。C₁₋₆アルキル基、ハロゲン原子、又はC₁₋₆アルコキシ基としては上記のものを用いることができる。R⁶は、ピリジン環の

2-位、5-位、又は6-位の任意の位置に置換することができる。これらのうち、R⁶が水素原子である化合物が好ましい。

【0013】より具体的にいって、本発明の皮膚外用剤の成分としては、6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸；6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸；6-(3,5-ジ-t-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸；又は6-(3,5-ジ-t-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸などの化合物が好ましいが、本発明の皮膚外用剤の成分は、これらの好ましい化合物に限定されることはない。なお、本発明の皮膚外用剤には、上記の化合物の1種あるいは2種以上を組み合わせて用いることが可能である。また、上記の化合物の任意の塩基付加塩や任意の水和物を用いてもよい。塩基付加塩としては、例えば、ナトリウム塩、カリウム塩、カルシウム塩、マグネシウム塩などの金属塩や、アンモニウム塩、有機アミン塩などを用いることができる。

【0014】本発明の皮膚外用剤における上記化合物の配合量は特に限定されず、化合物の種類や適用目的、皮膚の状態などにより適宜増減することができるが、一般的には、皮膚外用剤全量中 0.005～5.0 重量%、好ましくは 0.05～1.0 重量%である。なお、一般的には、上記化合物の配合量が0.005 重量%未満では効果は十分でない場合があり、また、5.0 重量%を越えて配合しても皮膚劣化防止効果の増強は見られない場合があるので、配合量が極端に上記の範囲を逸脱することは好ましくない。

【0015】上記化合物の一部は公知の化合物であり、例えば、特開平6-263702号公報及び欧州特許公開第 617 020-A1に記載された方法により容易に製造可能である。また、新規化合物については、本明細書の実施例に記載された方法や上記の刊行物に記載された方法に従って、あるいはそれらに加えて、さらに特開平7-17854 号公報及びPCT 国際公開W0 93/06086号などの刊行物に記載された方法を参照することにより、当業者に容易に製造可能である。

【0016】本発明の皮膚外用剤には、上記の化合物の他、通常の化粧品や医薬品、医薬部外品等の皮膚外用剤に用いられる他の成分、例えば、リボフラビン、酪酸リボフラビン、フラビンアデニンジスクレチド等のビタミンB₂類；ビリドキシン塩酸塩、ビリドキシンジオクタノエート等のビタミンB₆類；L-アスコルビン酸、L-アスコルビン酸ジバルミチン酸エステル、L-アスコルビン酸-2-硫酸ナトリウム等のビタミンC 類；パンテン酸カルシウム、D-パンテニルアルコール、パンテニルエチルエーテル、アセチルパンテニルエチルエーテル等のパンテン酸類；エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール等のビタミンD 類；ニコチン酸、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル等のニコチン酸類；

【0017】 α -トコフェロール、酢酸トコフェロール、ニコチン酸 DL- α -トコフェロール、コハク酸 DL- α -トコフェロール等ノビタミンE類；ビタミンP、ビオチン等のビタミン類；グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、スレオニン、アスパラギン酸及びその塩、グルタミン酸及びその塩、リジン、アルギニン、システイン、시스チン、メチオニン、フェニルアラニン、チロシン、ヒスチジン、トリプトファン、プロリン、N-バルミトイール L-アスパラギン酸ジエチル、N-ヤシ油脂肪酸-L-グルタミン酸ナトリウム等のN-アシル酸性アミノ酸塩、ヤシ油脂肪酸サルコントリエタノールアミン、ラウロイルメチル- β -アラニンナトリウム等のアシル中性アミノ酸塩、ピロリドンカルボン酸及びその塩、POE(40)硬化ヒマシ油モノピログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、N-ヤシ油脂肪酸-L-アルギニンエチルエステル-DL-ピロリドンカルボン酸塩等のアミノ酸及びアミノ酸誘導体；

【0018】アボガド油、パーム油、ピーナッツ油、牛脂、コメヌカ油、ホホバ油、月見草油、カルナバロウ、ラノリン、流動バラフィン、スクワラン、パルミチン酸イソステアリル、イソステアリルアルコール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン等の油分；グリセリン、ソルビトール、ポリエチレングリコール、1,3-ブチレングリコール、コラーゲン、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、デキストラン硫酸ナトリウム等の保湿剤；エリソルビン酸ナトリウム、バラヒドロキシアニソール等の酸化防止剤；ステアリル硫酸ナトリウム、セチル硫酸ジエタノールアミン、セチルトリメチルアンモニウムサッカリン、イソステアリン酸ポリエチレングリコール、アラキン酸グリセリル、ジグリセリンジイソステアレート、リン脂質等の界面活性剤；エチルパラベン、ブチルパラベン等の防腐剤；

【0019】グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等の消炎剤；胎盤抽出物、グルタチオン、ユキノシタ抽出物等の美白剤；オウバク、オウレン、シコン、シャクヤク、センブリ、バーチ、セージ、ピワ、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ、サフラン、センキュウ、ショウキョウ、オトギリソウ、オノニス、ローズマリー、ニンニク等の抽出物；ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体、幼牛血抽出物等の賦活剤； γ -オリザノール等の血行促進剤；硫黄、チアントール等の抗脂漏剤；カルボキシビニルポリマー、カルボキシメチルセルロース、カルボキシヒドロキシプロビルセルロース等の増粘剤；香料；水；アルコール；チタンイエロー、カーサミン、ベニバナ赤等の色剤；又は、ポリエチレン、ナイロン等の樹脂粉末等を必要に応じて適宜配合することができる。

【0020】本発明の皮膚外用剤には、皮膚疾患の予防

や治療に有用な医薬の有効成分及び／又は光障害の防止に有用な紫外線吸収剤等を配合してもよい。このような医薬の有効成分としては、例えば、ステロイド系化合物や抗生物質などを挙げることができる。紫外線吸収剤としては、例えば、パラメトキシケイ皮酸-2-エトキシエチル、パラメトキシケイ皮酸イソプロビル、ジイソプロビルケイ皮酸エステル、パラメトキシケイ皮酸エチルヘキシル、ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、メトキシケイ皮酸オクチル等のケイ皮酸紫外線吸収剤；ブチルメトキシベンゾイルメタン、4-tert-ブチル-4'-メトキシ-ジベンゾイルメタン等のベンゾイルメタン系紫外線吸収剤；グリセリル-モノ-2-エチルヘキサノイル-ジ-パラメトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤；

【0021】オルトアミノ安息香酸メチル、パラジメチルアミノ安息香酸-2-エチルヘキシル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等の安息香酸系紫外線吸収剤；グリセリルパラアミノベンゾエート、アミル-パラ-ジメチルアミノベンゾエート、エチル-4-ビスヒドロキシプロビルアミノベンゾエート等のベンゾエート系紫外線吸収剤；2-エチルヘキシル-2-シアノ-3,3'-ジフェニルアクリレート、ジガロイルトリオレエート、サリチル酸-2-エチルヘキシル、サリチル酸ホモメチル、グアイアズレン、ウロカニン酸等のその他の紫外線吸収剤などを用いることができる。

【0022】本発明の皮膚外用剤は、日光照射による光障害、加齢に伴う皮膚のしわ、たるみ、つやの消失等の皮膚劣化を防止する作用を有している。従って、本発明の皮膚外用剤を日常的な皮膚の手入れや日光照射後に適用することにより、皮膚の劣化を防止することができ、若々しい健康な皮膚の状態を維持することができる。なお、本発明の皮膚外用剤の剤形は特に限定されず、例えば化粧水等の可溶化系、乳液、クリーム等の乳化系、あるいは軟膏、分散剤、エアゾール状等の剤形をとることができる。使用方法は特に限定されないが、例えば、クリーム剤などの剤形の場合には、適量を指でとて顔や手に薄く満遍なく塗布し、好ましくはマッサージなどによって皮膚に擦り込めばよい。以下、本発明を実施例によりさらに具体的に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されることはない。

【0023】

【実施例】

(1) 化合物の製造

例1： 6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸
濃硫酸 8.1 ml 及び硝酸 (d=1.42) 5.16 ml の混合液を

1,2-ジエチルベンゼン 9.96 g (74.3 mmol) 中に 0℃ で滴下し、同温度で 2 時間反応させた。反応液を氷中に注入し、エーテルで抽出した。有機層を水で 3 回、飽和重曹水、飽和食塩水の順に洗浄し、脱水後に溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し（富士シリシア、BW-820MH、500 g；展開溶媒 n-ヘキサン／塩化メチレン=19/1）、3,4-ジエチルニトロベンゼン 7.8 gを得た（收率：58.6%）。上記3,4-ジエチルニトロベンゼン 6 g (36 mmol) 及び 5% Pd/c 0.6 g をエタノール 100 ml 中に加え、常温、常圧で接触還元した。触媒を濾去した後、溶媒を留去して3,4-ジエチルアミノベンゼン 4.89 gを得た（收率：91.2%）。

【0024】無水ベンゼン 500 ml 及びチオニルクロライド 77 ml 中に3-メトキシカルボニルピリジン-2-カルボン酸 4.62 g (25 mmol) を加え、還流下で 6 時間反応させた。溶媒を留去し、残渣に無水ベンゼン 100 ml を加えてチオニルクロライドを共沸濃縮（3回）した。残渣に無水ベンゼン 385 ml を加えて溶解し、この溶液に 3,4-ジエチルアミノベンゼン 4.5 g (25 mmol) を乾燥ピリジン 19.2 ml 及び無水ベンゼン 385 ml に溶解して室温で滴下混合し、アルゴン気流下で 3 時間反応させた。反応液を氷水 1925 ml 中に加え、2 N HCl 77 ml を加えてよく攪拌し、酢酸エチル 1.2 リットルで 3 回抽出した。有機層を飽和食塩水 1.2 リットルで洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥して濃縮固化した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し（富士シリシア、BW-820MH、500 g；展開溶媒 酢酸エチル/n-ヘキサン=1/3）、粗生成物 7.57 gを得た。得られた生成物をn-ヘキサン／酢酸エチルから再結晶して、6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸メチル 6.35 gを得た（收率：81.4%）。

【0025】6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸メチル 6 g (19.2 mmol) をメタノール 1 リットルに溶解し、2 N NaOH 200 ml を加えて室温で 12 時間反応させた。反応液を 0.5 N HCl 1.2 リットル中に加え、酢酸エチル 1.2 リットルで 3 回抽出した。有機層を飽和食塩水 1.2 リットルで洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、溶媒留去した。残渣を酢酸エチル／エタノールから再結晶して6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸 2.9 gを得た（收率：50.7%）。

淡黄色針状晶, mp 174-176°C

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆, 30°C) δ : 10.57 (s, 1H), 9.16 (d, 1H, J=2Hz), 8.50 (dd, 1H, J=2Hz, 8Hz), 8.25 (d, J=8Hz), 7.71 (d, 1H, J=2Hz), 7.67 (dd, 1H, J=2Hz, 8Hz), 7.14 (d, J=8Hz), 2.61 (m, 4H), 1.19 (t, 3H, J=7.5Hz), 1.16 (t, 3H, J=7.5Hz)

元素分析 (C₁₇H₁₈N₂O₃)： 理論値 C 68.44 ; H 6.08 ; N 9.39 ; 実測値 C 68.70 ; H 6.11 ; N 9.41

【0026】例 2：6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸

塩化アルミニウム (AlCl₃) 11.4 g (62.2 mmol) のニトロメタン溶液 (60 ml) に、塩化アセチル 6.44 g (82.0 mmol) 及び 1,2-ジエチルベンゼン 9.50 g (70.8 mmol) のニトロメタン溶液 (60 ml) を 0°C で 1 時間かけて滴下混合した。反応液を室温で 2 時間攪拌し、氷水 150 ml に注入した。この混合物に酢酸エチル 150 ml を加え、セライトで濾過し、水層を酢酸エチル (100 ml) で抽出した。酢酸エチル層を集めて、水、飽和重曹水、水、飽和食塩水 (各 100 ml) で順次洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣を真空蒸留 (b p 95°C/1.2 mmHg) して3,4-ジエチルアセトフェノン 12.0 gを得た（收率：96%）。

【0027】3,4-ジエチルアセトフェノン 11.0 g (62 mmol) のジオキサン (160 ml) 溶液に 5% NaOCl 水溶液 (275 ml) 及び 25% NaOH 水溶液 (33 ml) の混液を滴下混合し、50~60°C で 2 時間反応させた。反応液を冷却して氷水 1 リットルに注入し、NaHSO₃ を加えた後、濃塩酸で pH 3 に調整した。この混合物を酢酸エチル (750 ml, 500 ml) で抽出した。酢酸エチル層を水、飽和食塩水 (各 500 ml) で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。得られた粗生成物 11.0 g をn-ヘキサン 120 ml から再結晶して3,4-ジエチル安息香酸 10.2 gを得た（收率：92%）。

【0028】3,4-ジエチル安息香酸 6.5 g (36.5 ml) の無水ベンゼン (200 ml) 溶液にチオニルクロライド 28 ml を加え、還流下 5 時間反応させた。反応液を濃縮後、無水ベンゼン 50 ml で 2 回置換して濃縮した。残渣に乾燥 THF 25 ml を加えて溶解し、この溶液を 6-アミノニコチン酸メチルエステル 5.55 g (36.5 ml) 及びトリエチルアミン 4.61 g (4.56 mmol) の乾燥 THF 溶液 (300 ml) に室温で滴下混合した。反応液を室温で 3 時間攪拌した。反応液を濃縮し、酢酸エチル (150 ml) やび水 (100 ml) を加えた。水層を酢酸エチルで抽出 (50 ml × 2)、酢酸エチル層を水、飽和食塩水 (各 100 ml) で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し (BW-820MH, 300 g ; 展開溶媒 塩化メチレン／酢酸エチル=15/1)、9.0 g の6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチルおよびジアミド体の混合物を得た。

【0029】この混合物をメタノール (650 ml) に溶解し、濃塩酸 (20 ml) を加えて 55°C で 2.5 時間反応させた。反応液を濃縮し、飽和重曹水 (400 ml) やび塩化メチレン (200 ml) を加え、水層を塩化メチレンで抽出した (150 ml, 100 ml)。塩化メチレン層を水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し (BW-820MH, 250 g ; 展開溶媒 ベンゼン／アセトン=30/1) し、5.5 g の粗生成物を得た。この生成物をn-ヘキサン (100 ml) から再結晶して、6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチル 4.7 gを得た（收率：41%）。

【0030】6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチル 4.7 g(15 mmol)をメタノール(900 ml)に溶解し、2 N NaOH 170 mlを加えて室温で12時間反応させた。反応液を0.5 N HCl(1270 ml)中に加え、酢酸エチルで抽出した(6 リットル, 2 リットル)。有機層を飽和食塩水(2 リットル)で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣をクロロホルム/エタノール=1/1(720 ml)から再結晶して、6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸2.4 gを得た(収率: 54%)。

無色針状晶, mp 294-295°C

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆, 30°C) δ : 11.02(s, 1H), 8.88(m, 1H), 8.32(br d, 1H, J=8Hz), 8.30(dd, 1H, J=2Hz, 8.8Hz), 7.88(d, 1H, J=2Hz), 7.82(dd, 1H, J=2Hz, 8Hz), 7.30(d, 1H, J=8Hz), 2.69(q, 4H, J=7.5Hz), 1.23(t, 3H, J=7.5Hz), 1.19(t, 3H, J=7.5 Hz)z

元素分析 (C₁₇H₁₈N₂O₃)：理論値 C 68.44 ; H 6.08 ; N 9.39 ; 実測値 C 68.25 ; H 6.08 ; N 9.10

【0031】例3：6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸

3,5-ジ-tert-ブチル安息香酸(1,800 mg)、チオニルクロライド(3 ml)、及び無水ベンゼン(20 ml)の混合物を6時間還流した。溶媒及び過剰のチオニルクロライドを減圧留去した。残渣を無水ベンゼン(15 ml)に溶解し、6-アミノニコチン酸メチル(500 mg)、トリエチルアミン(3 ml)、無水ベンゼン(10 ml)の混合物を加えて室温で一晩反応させた。反応液を水にあけ、酢酸エチルで抽出した。有機層を水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製して6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチルおよびジアシル体の混合物(770 mg)を得た。この混合物をメタノール(30 ml)に溶解し、濃塩酸(1 ml)を加えて3時間還流した。溶媒を留去し、残渣に塩化メチレン及び1 N重曹水を加えた。有機層を水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製して6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチルを得た。

【0032】6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸メチル(93 mg)をメタノール(10 ml)

(2) 皮膚外用剤の製造例

例1：化粧水

6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	0.05
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン	
-5-スルホン酸ナトリウム	0.1
酢酸トコフェノール	0.01
グリセリン	4.0
1,3-ブチレングリコール	4.0
エタノール	8.0
ポリオキシエチレン(60)硬化ヒマシ油	0.5

40 【0035】

1)に加熱溶解した。2 N NaOH(2 ml)を加え、反応液を室温下で一晩攪拌した。反応液に2 N HClを加えて酸性にした後、溶媒を留去した。残渣に酢酸エチル及び水を加え、有機層を分離して飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥して溶媒を留去した。残渣をメタノール/酢酸エチルから再結晶して、6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸を得た。

無色プリズム晶, mp > 300°C

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆, 30°C) δ : 11.27(s, 1H), 8.89(d, 1H, J=2.2Hz), 8.34(d, 1H, J=8.4Hz), 8.31(dd, 1H, J=2Hz, 8.5 Hz), 7.87(d, 1H, J=1.5Hz), 7.63(brt, 1H), 1.34(s, 18H)

元素分析 (C₂₁H₂₂N₂O₃)：理論値 C 71.16 ; H 7.39 ; N 7.90 ; 実測値 C 71.19 ; H 7.66 ; N 7.88

【0033】例4：6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸

5-メトキシカルボニルビリジン-2-カルボン酸(14 g)をベンゼン(120 ml)に溶解し、チオニルクロライド(85 ml)を加えて4時間還流した。溶媒を留去し、残渣に無

20 水ベンゼンを加えてチオニルクロライドを留去して酸クロリドを得た。上記の酸クロリドのベンゼン溶液(170 ml)を3,5-ジ-tert-ブチルアニリン(14.9g)のビリジン(62 ml)-ベンゼン(100 ml)溶液に20°Cで滴下し、3時間反応を行った。反応液を冰水(120 ml)にあけ、1N HCl(57 ml)を加えて酢酸エチル(60 ml)で2回抽出した。有機層を0.5 N HCl(150 ml)、飽和食塩水(150 ml×2回)で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで脱水した。活性炭(850 mg)で処理して溶媒を留去し26.8 gの残渣を得た。D-ヘキサンと酢酸エチルの混合溶媒から再結晶して22.5 gのエステル体を得た。

【0034】上記のエステル体をメタノール(280 ml)に懸濁して20°C以下で2 N NaOH(125 ml)を添加し、室温で6時間反応させた。20°C以下で1.5 N HCl(150 ml)を加え、析出した結晶を酢酸エチル1.5リットルで抽出した。洗浄後、酢酸エチルを留去し、残渣を酢酸エチル-エタノールから再結晶して、6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸14.7 gを得た。

m.p. 288-289.5°C

11

メチルパラベン	0.2
クエン酸	0.05
クエン酸ソーダ	0.1
香料	0.05
精製水	残余

【0036】精製水に2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、クエン酸、クエン酸ソーダ、グリセリン、1,3-ブチレングリコールを溶解する。別に6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸、エタノールにポリオキシエチレン(60)硬化ヒ*10

例2: クリーム

セトステアリルアルコール	3.5
スクワラン	40.0
ミツロウ	3.0
還元ラノリン	5.0
エチルパラベン	0.3
ポリオキシエチレン(20)	
ソルビタンモノバルミチン酸エステル	2.0
ステアリン酸モノグリセリド	2.0
N-ステアロイルグルタミン酸ナトリウム	0.5
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン	0.5
メトキシケイ皮酸オクチル	1.0
酢酸レチノール	2.0
月見草油	0.05
香料	0.03
6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	0.1
1,3-ブチレングリコール	5.0
ポリエチレングリコール1500	5.0
精製水	残余

【0038】セトステアリルアルコール、スクワラン、ミツロウ、還元ラノリン、エチルパラベン、ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノバルミチン酸エステル、ステアリン酸モノグリセリド、N-ステアロイルグルタミン酸ナトリウム、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、メトキシケイ皮酸オクチル、酢酸レチノール、月見草油、6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコ

30 チン酸を加熱溶解し、別個に75℃に加温した1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール1500とともに精製水に攪拌しながら加えた。ホモミキサー処理し乳化粒子を細かくした後、攪拌しながら急冷してクリームを得た。

【0039】

例3: 乳液

6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	0.2
バラジメチルアミノ安息香酸-2-エチルヘキシル	0.1
ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキシル	0.2
ステアリン酸	1.5
セチルアルコール	0.5
ミツロウ	2.0
ポリオキシエチレン(10)モノオレイン酸エステル	2.0
L-アルギニン	0.3
L-グルタミン酸Na	0.02
PCA-Na	0.05
ヒアルロン酸Na	0.01
プロピレングリコール	5.0

13

グリセリン	3.0
エタノール	3.0
エチルパラベン	0.3
香料	0.03
カルボキシビニルポリマー	0.12
精製水	残余

【0040】エタノールに香料を加えて溶解した(アルコール相)。一方、精製水にL-アルギニン、L-グルタミン酸Na、PCA-Na、ヒアルロン酸Na、プロピレングリコール、グリセリン、カルボキシビニルポリマーを加えて加熱溶解して70℃に保った(水相)。さらに、他の成分*

*を混合して加熱溶解して70℃に保った(油相)。水相に油相を加えて予備乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した。この混合物に攪拌しながらアルコール相を加え、その後攪拌しながら30℃に冷却して乳液を得た。

【0041】

例4: フォームマスク

6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)-

ニコチン酸	0.02
4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン	0.5
ステアリン酸	1.0
ベヘニル酸	1.0
自己乳化型モノステアリン酸グリセリン	1.5
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(5)グリセリン	2.5
バチルアルコール	1.5
香料	0.05
グリセリン	5.0
1,3-ブチレングリコール	5.0
ポリエチレングリコール1500	3.0
メチルパラベン	0.1
水酸化カリウム	0.15
精製水	残余
液化石油ガス	6.0
ジメチルエーテル	2.0

【0042】精製水にグリセリン、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール1500、メチルパラベン、水酸化カリウムを加え、70℃に加熱溶解した。この溶液に液化石油ガス、ジメチルエーテルを除く他の成分を加え、30℃に熱溶解して加え、均一に混合して容器に充填した。最後に液化石油ガス、ジメチルエーテルを噴射剤として加え、フォームマスクを得た。

【0043】

例5: 軟膏

6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	0.1
パラジメチルアミノ安息香酸オクチル	4.0
ブチルメトキシベンゾイルメタン	4.0
酢酸トコフェロール	0.5
パルミチン酸レチノール	1.0
ステアリルアルコール	18.0
モクロウ	20.0
ポリオキシエチレン(10)モノオレイン酸エステル	0.25
グリセリンモノステアリン酸エステル	0.3
ワセリン	32.0
精製水	残余

【0044】精製水を70℃に保ち(水相)、一方、その他の成分を70℃で混合溶解した(油相)。水相に油相を加えてホモミキサーで均一に乳化し、その後冷却して軟膏を得た。

【0045】(3) 試験例

例1: 線維芽細胞のEGF依存性増殖に及ぼす作用

低血清下で増殖停止している線維芽細胞の増殖は増殖因子に依存しており、EGFの添加で増殖が促進され、レチノイン酸を共存させるとさらに増殖促進が行われる。そこで、本発明の皮膚外用剤の成分について、線維芽細胞

のEGF依存性増殖に及ぼす作用について検討した。ヒト皮膚線維芽細胞(HF52)を継代して得たPDL12細胞を、5% FBS-DMEMに懸濁し、直径3.5cmのシャーレに植え付け(47,200個/デッシュ)、37°Cで7時間培養後、4nMのEGFを含む0.25%FBS-DMEMに所定濃度の被検化合物又はDMSOを加えた培地に交換して7日間培養した。蛍光法により細胞のDNA量を定量し、増殖促進率を求めた。

【0046】結果を図1に示す。10⁻⁶M濃度のレチノイソ酸を共存させることにより、EGF依存性増殖は40~50%促進された。このレチノイソ酸によるEGF依存性増殖を指標にして、上記化合物のレチノイド作用を調べた。その結果、6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸は10⁻⁵Mで30%、10⁻⁶Mで20%、6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸は10⁻⁶Mで20%の増殖促進作用を示した。

【0047】例2：外用によるヘアレスマウス皮膚表面形状(皮溝)の平坦化作用

レチノイソ酸の外用あるいは内服により、皮膚は赤みを帯び、光沢と透明感のある状態に変化する。ヘアレスマウスで同様な現象が再現できることを利用し、その変化と対応のある定量的指標を用いて本発明の皮膚外用剤の作用をレチノイソ酸と比較した。ヘアレスマウスに0.05%、0.025%、及び0.01%のレチノイソ酸アセトン溶液、製造例に示した6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸、6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸、6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸、6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸の各1%アセトン溶液、及びアセトンをそれぞれ30日間(5回/週)塗布し、最終塗布日の翌日にシリコン系樹脂を用いて皮膚表面のレプリカを取り、画像解析装置により皮膚表面形状の特徴を表す種々のパラメーターを求めた。

【0048】レチノイソ酸の連続塗布により、濃度依存的に赤みと光沢のある皮膚へと変化し、ヒト皮膚で認められるレチノイド皮膚様変化を生じた。この変化に対してレプリカ上では皮紋が消失し、表面が平坦化していく変化として捉えられた。画像解析パラメーターKSD(KSD=3.9mm×3.9mm内の輝度分布の分散)が皮溝深さと相関することが知られており(現代皮膚科学体系・年間版90B)、この値がレチノイソ酸の作用とよく対応していた(表1)。製造例で得た化合物はいずれもレチノイソ酸様の変化を生じ、レチノイソ酸より弱いもののKSD変化が認められた。組織所見では、いずれの被検化合物についてもレチノイソ酸で観られた炎症性変化(表皮内・真皮内細胞浸潤、細胞間・細胞内浮腫、血管拡張など)は認められなかった。最も明瞭な変化は表皮肥厚であった(表2)。

【0049】

【表1】

KSD変化(%)

アセトン	89.7%
0.01% レチノイソ酸	79.2%
0.025% レチノイソ酸	73.4%
0.05% レチノイソ酸	33.6%
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	84.5%
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	83.7%
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	78.3%
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	76.9%

【0050】

※※【表2】
表皮肥厚(μm)

アセトン	18μm
0.01% レチノイソ酸	48μm
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	22μm
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	21μm
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	32μm
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	35μm

【0051】例3：ライノマウス皮膚に対する作用
ライノマウスの表皮には毛胞由来のケラチンを内包した卵形のう(utricle)が存在している。レチノイソ酸の投与によりこの卵形のうが縮小することなどが知られてい

る(例えば、Ashton, R.E. et al. J. Invest. Dermato 1. 82, pp. 632-635, 1984など)。製造例で示した化合物について上記作用を調べた。8週齢の雌性ライノマウスの背部皮膚に所定濃度の被検化合物溶液及び担体0.1

17

mlを1日あたり1回あるいは2回の割合で1週間に5日間、2週間にわたり塗布した。組織学的評価のために背部皮膚を切り出し、0.5%酢酸を用いて表皮を真皮から分離し、光学顕微鏡観察用の表皮シートを作製した。CCDカメラを通して得られた画像データを解析し、卵形の*

18

*う面積を求めた。結果を表3に示す。レチノイン酸は皮膚発赤が強いが、製造例で示した化合物では全く皮膚発赤が認められなかった。

【0052】

【表3】

卵形のう面積の減少(vs担体, %)

	0.00001%	0.0001%	0.001%	0.01%	0.1%	1%
レチノイン酸	77	59	15			
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸			90	87	60	
1% 6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸			95	89	50	
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸			80	62	40	
1% 6-(3,5-ジ-tert-ブチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸			81	58	30	

【0053】例4：代謝性試験

レチノイン酸が人体に対し毒性を示す一因は、レチノイン酸が体内において代謝されにくいことにある。そこで、製造例に示した2種の化合物の代謝性について以下の方法で検討した。一定量のラット肝ホモジネート(0.15M KCl水溶液で灌流脱血したラット肝25 gをpH 7のリン酸緩衝液 75 mlとホモジネートした25%ホモジネート)※

※を含む緩衝液に、エタノールに溶解した被験物質を加え(最終濃度 10^{-4} M)、経時的にHPLCで被験物質残量を定量した。結果を表4に示す。得られた結果から、本発明の化合物が体内で容易に代謝されることが示唆された。

【0054】

【表4】

ラット肝ホモジネート中の代謝性

化 合 物	10分後残量(%)	60分後残量(%)
6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸	65	5.0
6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸	55	3.0

* t = 0 を 100 %とする。

【0055】例5：安定性試験

製造例で得た各化合物の300 ppmエタノール溶液にキセノン光を30時間照射後、及び50℃で2ヶ月保存後の残存量をHPLCにより定量した結果、いずれの化合物も95%以上残存していることが確認された。一方、同条件下において、レチノイン酸は速やかに分解した。

【0056】

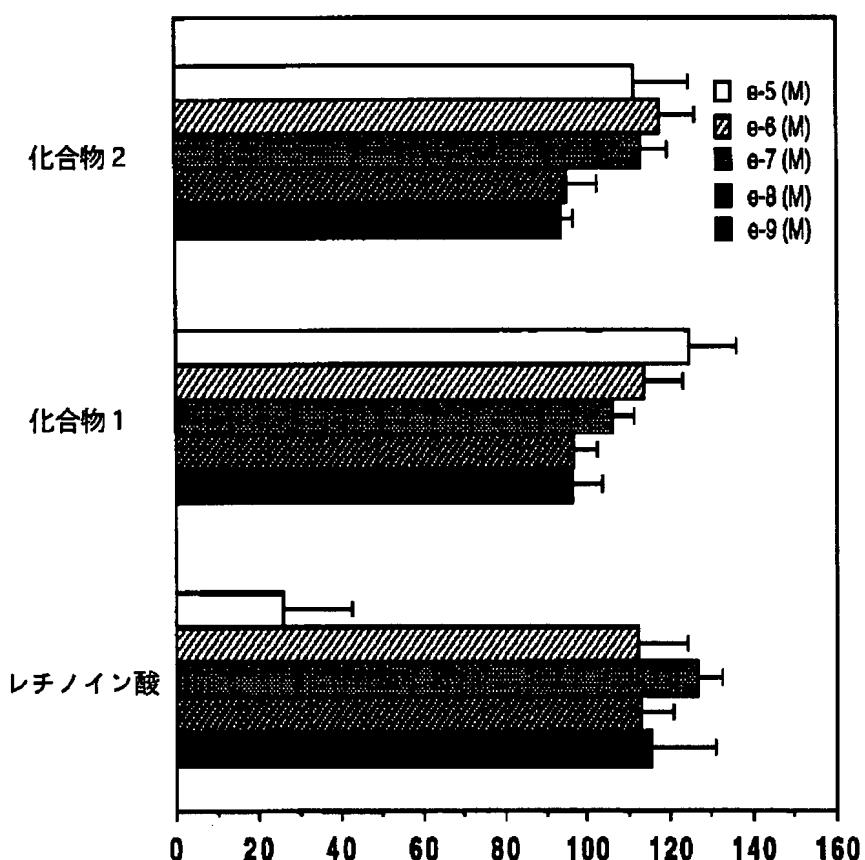
【発明の効果】本発明の皮膚外用剤の成分である上記式の化合物は、優れた皮膚劣化防止作用を有しており、加えて、安定で経皮吸収が少なく安全性が高い。また、体

内に吸収された場合にも容易に代謝されるのでレチノイド作用による副作用を引き起こすことがないという特徴を有している。

40 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の皮膚外用剤に含まれる代表的化合物の線維芽細胞 EGF依存性増殖に及ぼす作用を示す図である。図中、化合物1は6-(3,4-ジエチルフェニルカルバモイル)ニコチン酸を示し、化合物2は6-(3,4-ジエチルフェニルカルボキサミド)ニコチン酸を示す。

【図1】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6
C 07 D 213/81

識別記号 庁内整理番号 F I
C 07 D 213/81

技術表示箇所

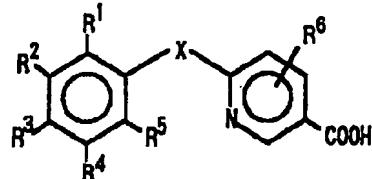
(72)発明者 江浜 律子
東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会
社資生堂内

(72)発明者 首藤 紘一
東京都杉並区下高井戸5-9-18

(57) (Abstract)

(Construction)

A topical agent containing a compound represented by the following formula (wherein, R1, R2, R3, R4 and R5 each independently denote hydrogen, 1-6C alkyl group and the like, and X denotes -NH-CO- or -CO-NH-, and R6 denotes hydrogen, 1-6C alkyl group and the like)



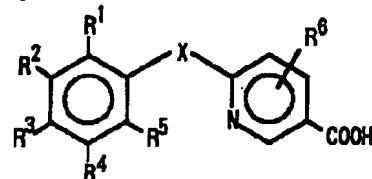
(effect)

It has excellent skin deterioration prevention action, and is stable with small percutaneous absorption, safety is high. Moreover, because it is readily metabolised, side effects due to retinoid action is small.

Patent Claims

[Claim 1]

A topical agent containing a compound represented by the following formula:



(wherein, R1, R2, R3, R4 and R5 each independently denote hydrogen, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group, X denotes -NH-CO- or -CO-NH-, and R6 denotes hydrogen, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group).

[Claim 2]

A topical agent in accordance with Claim 1, having skin deterioration prevention action.

[Claim 3]

A topical agent in accordance with Claim 1, wherein aforesaid compound is a compound that is not substantially absorbed percutaneously.

[Claim 4]

A topical agent in accordance with the Claim 1, wherein the local and/or systemic cytotoxicity is reduced.

[Claim 5]

A skin deterioration inhibitor for topical use, containing a compound in accordance with Claim 1 as effective ingredient.

(Detailed Description of the Invention)

(0001)

(Sphere of Application in Industry)

This invention is related to a topical agent, in particular, a topical agent having skin deterioration prevention action.

(0002)

(Technology of the Prior Art)

In order to prevent skin deterioration such as wrinkling, sagging of skin and disappearance of brightness accompanying the photo-damage due to sun irradiation or aging, various topical agents have been used. In such topical agents, a component that protects the skin from the external factor such as sun, a component that acts on the skin itself and promotes activation of skin, and the like are formulated. As an effective ingredient having the latter action, Vitamin A or derivatives thereof are attracting attention.

(0003)

It is known that the retinoic acid which is an active metabolite of vitamin A (vitamin A acid) binds to a specific receptor of the target cell, and physiological effect is displayed, and the compound which binds to this receptor (retinoid receptor) and displays retinoic acid-like action is generally known generally as retinoid. Moreover, it is known that retinoid has various kinds of actions such as vision control action, growth stimulation action, reproduction action and the like, and in particular it plays an important function for the normal differentiation and maintenance of skin. In some cases, topical agent containing vitamin A and some retinoids may be topically used for the purpose of skin deterioration prevention. However, in practice, whether a rough skin, dryness, follicular hyperkeratosis and the like are inhibited by retinoid or not, or whether the effective for skin deterioration prevention or not, is not known.

(0004)

On the other hand, the retinoids sometimes used for aforesaid purpose, in general have a highly lipid soluble characteristics, and when applied as a topical agent, they are quickly absorbed to the body from the skin (percutaneous absorption), and there is a situation that systemic side effect such as hyperretinoidosis and the like are accompanied in addition to the target topical action (skin deterioration prevention action). Moreover, these retinoids were not readily decomposed locally and in vivo, and there was case that side effect due to cell injury is induced, and there are many restrictions for the application for the purpose of skin deterioration prevention.

(0005)

On the other hand, as compound having retinoid action, benzoic acid derivatives in accordance with Kokai 61-22047, Kokai 61-76440 are known. Moreover, pyridine carboxylic acid derivatives having retinoid action are disclosed in Kokai 6-263702, EP Laid-Open 617020-A1 and PCT WO93/6086. As for pyridine carboxylic acid derivatives disclosed in Kokai 6-263702 EP Laid-Open 617020-A1, usefulness as anti bone disease medicine is known as well (Kokai 7-17854), however, it has not been suggested or indicated in any of these publications that these derivatives have skin deterioration prevention action.

(0006)

As for the pyridine carboxylic acid derivatives disclosed in PCT WO93/6086, it is indicated in said publication that it is useful for therapy of dermatosis, however, there is no suggestion nor indication that these derivatives have skin deterioration prevention action. Moreover, these pyridine carboxylic acids have 5,5,8,8-tetramethyl-5,6,7,8-tetrahydro naphthyl group or 3-adamantyl phenyl group, and has an extreme lipid soluble characteristic.

(Problems to be Overcome by this Invention)

The object of this invention is to put forward a topical agent which has excellent skin deterioration prevention action. In a further embodiment, the object of this invention is to put forward aforesaid topical agent, wherein a compound having retinoic acid action is contained as effective ingredient, and cytotoxicity is reduced. Moreover, another object of this invention is to put forward a topical agent having excellent skin deterioration prevention action which has no systemic side effect such as hyperretinoidosis.

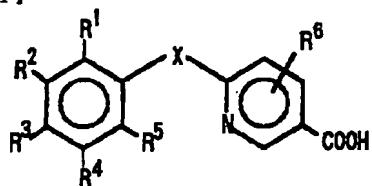
(0007)

(Means to Overcome these Problems)

These inventors carried out assiduous investigations in order to solve aforesaid problem, as a result, discovered that nicotinic acid derivatives of the following formula having activity of retinoic acid had extremely excellent skin deterioration prevention action. Moreover, these inventors also discovered that these compounds were comparatively hydrophilic, had little percutaneous absorption properties, and also were readily decomposed on skin and in vivo, therefore systemic cytotoxicity was remarkably reduced. This invention was completed on the basis of aforesaid findings.

(0008)

In other words, this invention puts forward a topical agent containing a compound represented by the following formula:



(wherein, R1, R2, R3, R4 and R5 each independently denote hydrogen, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group, X denotes -NH-CO- or -CO-NH-, and R6 denotes hydrogen, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group).

(0009)

In accordance with the preferred form of aforesaid invention, aforesaid topical agent having skin deterioration prevention action, aforesaid topical agent wherein, aforesaid compound is a compound which is not substantially absorbed percutaneously, and aforesaid topical agent wherein topical and/or systemic cytotoxicity is reduced, are put forward. Moreover, in accordance with another form of this invention, a skin deterioration inhibitor for topical use containing aforesaid compound as effective ingredient is put forward.

(0010)

In aforesaid compound contained in topical agent of this invention, R1, R2, R3, R4 and R5 each independently denote hydrogen, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group. As C1-6 alkyl group, either of straight chain or branched alkyl group may be used, and as further example, methyl group, ethyl group, n-propyl group, isopropyl group, n-butyl group, sec-butyl group, tert butyl group, n-pentyl group, iso pentyl group, neopentyl group, n-hexyl group and the like can be used. Among these, ethyl group, isopropyl group or tert butyl group is preferably used. As C1-6 alkoxy group, either of straight or branched chain alkoxy group may be used, and as a

further example, methoxy group, ethoxy group, n-propoxy group, isopropoxy group, n-butoxy group, sec-butoxy group, tert butoxy group and the like can be used. As halogen atom, any of fluorine atom, chlorine atom, bromine atom or iodine atom may be used.

(0011)

For example, among such compounds, a compound in which two adjacent or non-adjacent substituents selected from the aforesaid R1, R2, R3, R4 and R5 are same or different alkyl groups is a preferred compound as the component of topical agent of this invention. For example, a compound in which R2 and R3, or R2 and R4 are both alkyl groups is preferred. Among such compounds, the compound wherein the alkyl group is ethyl group, isopropyl group or tert butyl group is more preferred, and methylene group is particularly preferred.

(0012)

R6 denotes hydrogen atom, 1-6C alkyl group, hydroxy group, halogen atom or C1-6 alkoxy group. As C1-6 alkyl group, halogen atom or C1-6 alkoxy group, aforesaid species can be used. R6 can be substituted at arbitrary position of 2-position, 5-position or 6-position of pyridine ring. Among these the compound in which R6 is hydrogen atom is preferred.

(0013)

In more concrete terms, as component of topical agent of this invention, compounds such as 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid, 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid, 6-(3,5-di-t-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid or 6-(3,5-di-t-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid and the like are preferred, but the component of topical agent of this invention is not restricted to these preferred compounds. Moreover, in topical agent of this invention, one or more of aforesaid compounds can be used in a combination thereof. Moreover, arbitrary base addition salt and arbitrary hydrate of aforesaid compound may be used. For example, as base addition salt, sodium salt, metal salt such as potassium salt, calcium salt, magnesium salt and ammonium salt, organic amine salt and the like can be used.

(0014)

The quantity formulated of the aforesaid compound is not restricted in particular in topical agent of this invention, and it can be suitably varied depending on the type of the compound, application purpose and the state of skin, but in general it is 0.005-5.0 wt.% in total quantity of topical agent, preferably 0.05-1.0 wt%. Moreover, in general, if the quantity formulated of aforesaid compound is less than 0.005 wt.%, there is a situation that the effect is not sufficient, and moreover even when the

quantity formulated exceeds 5.0 wt.%, the enhancement of the potentiation of skin deterioration prevention effect is not observed in some cases, therefore, it is not preferred to be greatly deviated from aforesaid range.

(0015)

A part of the aforesaid compound is well known compound, and for example, it can be readily produced by the method described in Kokai 6-263702 and EP Laid-Open 617020-A1. Moreover, the novel compounds can be readily produced by a person skilled in the art in accordance with processes in Examples of this specification or in aforesaid publication, furthermore by referring to process in accordance with publications such as Kokai 7-17854 and PCT WO 93/6086 in addition to these.

(0016)

In addition to aforesaid topical agent of this invention, other components used for topical agent such as usual cosmetics, pharmaceutical agent, over the counter drug and the like, can be used. For example, vitamin B2 species such as riboflavin, riboflavin butyrate, flavin adenine dinucleotide and the like, vitamin B6 species such as pyridoxine hydrochloride, pyridoxine dioctanoate and the like, vitamin C species such as L-ascorbic acid, L-ascorbic acid dipalmitate, L-ascorbic acid-2-sodium sulphate and the like, pantothenic acid species such as calcium pantothenate, D-pantoteny alcohol, pantoteny ethyl ether, acetyl pantoteny ethyl ether and the like, vitamin D species such as ergocalciferol, cholecalciferol and the like, nicotinic acid species such as nicotinic acid, nicotinamide, benzyl nicotinate and the like.

(0017)

vitamin E species such as alpha-tocopherol, tocopherol acetate, DL-alpha-tocopherol nicotinate, DL-alpha-tocopherol succinate and the like, vitamin species such as vitamin P, biotin and the like, amino acids and amino acid derivatives such as glycine, alanine, valine, leucine, isoleucine, serine, threonine, aspartic acid and salts thereof, glutamic acid and salts thereof, lysine, arginine, cysteine, cystine, methionine, phenylalanine, tyrosine, histidine, tryptophan, proline, N-acyl acidic amino acid salt such as N-palmitoyl L-aspartic acid diethyl, N-coconut oil fatty acid-L-sodium glutamate and the like, acyl neutral amino acid salt such as coconut oil fatty acid sarcosine triethanolamine, lauroyl methyl-beta-alanine sodium and the like, pyrrolidone carboxylic acid and salts thereof, POE(40) hardened castor oil mono pyroglutamate mono iso stearic acid diester, N-coconut oil fatty acid -L-arginine ethylester -DL-pyrrolidone carboxylic acid salt and the like.

(0018)

Oil such as avocado oil, palm oil, peanut oil, beef tallow, rice bran oil, jojoba oil, evening primrose oil, carnauba wax, lanolin, liquid paraffin, squalane, palmitic acid iso stearyl, iso stearyl alcohol, tri-2-ethyl hexanoic acid glycerol and the like, moisturizing agent such as glycerine, sorbitol, polyethyleneglycol, 1,3-butylene glycol, collagen, hyaluronic acid, chondroitin sulfate, dextran sulfate sodium and the like, antioxidant such as sodium erythorbate, para hydroxyanisole and the like, detergent such as stearyl sodium sulfate, cetyl sulfuric acid diethanolamine, cetyltrimethylammonium saccharin, iso stearic acid polyethyleneglycol, arachic acid glycetyl, diglycerol di iso stearate, phospholipid and the like, preservatives such as ethylparaben, butyl para pen and the like.

(0019)

Antiphlogistic such as glycyrrhizin acid derivative, glycyrrhetic acid derivative, salicylic acid derivative, hinokitiol, zinc oxide, allantoin and the like, beautifying and whitening agent such as placenta extract, glutathione, Saxifraga extract and the like, extract such as Phellodendron, Coptis, Shikon, peony, sialid, birch, sage, loquat, carrot, aloe, Malva sylvestris, iris, grape, coix, sponge gourd, lily, saffron, Cnidium officinale, ginger, Hypericum erectum, Ononis, rosemary, garlic and the like, activator such as a royal jelly, photo sensitive element, cholesterol derivatives, calf blood extract and the like, blood circulation accelerating agent such as gamma-oryzanol and the like, anti-seborrhoica agent such as sulphur, thianthol and the like, thickener such as carboxy vinyl polymer, carboxymethylcellulose, carboxy hydroxypropylcellulose and the like, flavour, water, alcohol, colour agent such as titanium yellow, casamine, safflower red and the like, or resin powder such as polyethylene, nylon and the like. These can be suitably formulated in accordance with requirements.

(0020)

An effective ingredient of drug useful for prevention and treatment of dermatosis and/or UV absorbent useful for prevention of photo damage and the like may be formulated to the topical agent of this invention. As effective ingredient of such drug, for example, steroid compound and antibiotics and the like are nominated. As UV absorbent, cinnamic acid series UV absorbent such as para methoxy cinnamic acid-2-ethoxyethyl, para methoxy cinnamic acid isopropyl ester, diisopropyl cinnamate, para methoxy cinnamic acid ethylhexyl, dipara methoxy cinnamic acid mono -2-ethyl hexanoic acid glycetyl, methoxy cinnamic acid octyl and the like, benzoyl methane series UV absorbent such as butyl methoxybenzoyl methane, 4-tert butyl-4'-methoxy-dibenzoyl-methane and the like, benzophenone series UV absorbent such as glycetyl-mono-2-ethyl hexanoyl-di-para methoxybenzophenone, 2,2'-dihydroxy-4-methoxybenzophenone, 2,2'-dihydroxy-4,4'-dimethoxy

benzophenone, 2-hydroxy-4-methoxybenzophenone, 2-hydroxy-4-methoxybenzophenone-5-sodium sulphonate and the like can be used.

(0021)

Benzoate system UV absorbent such as ortho aminobenzoic acid methyl ester, para dimethylaminobenzoic acid -2-ethylhexyl ester, para dimethylaminobenzoic acid octyl ester and the like, benzoate system UV absorbent such as glyceryl p-amino benzoate, amyl-para-dimethylamino benzoate, ethyl-4-bis hydroxypropyl amino benzoate and the like, other UV absorbent such as 2-ethylhexyl -2-cyano-3,3'-diphenyl acrylate, digalloyl trioleate, salicylic acid-2-ethylhexyl, salicylic acid homo methyl, guiazulene, urocanic acid and the like can be used.

(0022)

Topical agent of this invention has an action of preventing the skin deterioration such as wrinkling, sagging of skin and disappearance of brightness accompanying the photo-damage due to sun irradiation or aging. Accordingly, by applying topical agent of this invention to the daily repair of skin and after sunbathing, deterioration of skin can be prevented, and youthful and healthy state of skin can be maintained. Moreover, agent form of topical agent of this invention is not restricted in particular, and for example agent forms such as solubilisation system such as toner and the like, emulsification system such as milky lotion, cream and the like, or ointment, dispersant, aerosol can be formed. Method of use is not restricted in particular, however, in the case of formulation such as cream agent, a suitable quantity is taken with a finger, and it is applied thinly and thoroughly to face and hand and preferably if it is rubbed into skin by massaging. Below, this invention is further described in concrete terms by Example, however, this invention is not restricted to these Examples.

(0023)

(Examples)

(1) Production of compound.

Example 1: 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid.

A liquid mixture of concentrated sulfuric acid 8.1 ml and nitric acid ($d = 1.42$) 5.16 ml was dropwise-added at 0 degrees to 1,2-diethylbenzene 9.96 g (74.3 mmol) and it was reacted at the same temperature for two hours. The reaction liquor was discharged into ice, and extraction was carried out with ether. The organic layer was washed with water 3 times, with saturated aqueous sodium bicarbonate and with saturated aqueous sodium chloride solution in this order, and the solvent was

eliminated by distillation after dehydration. The residue was purified by silica gel column chromatography (Fuji silica, BW-820MH, 500 g, eluent n-hexane / methylene chloride = 19/1), and 3,4-diethyl nitrobenzene 7.8 g was obtained (yield = 58.6 %). Aforesaid 3,4-diethyl nitrobenzene 6 g (36 mmol) and 5 % Pd/c 0.6 g were added to ethanol 100 ml, and catalytic reduction was carried out at normal temperature and normal pressure. The catalyst was eliminated by filtration, thereafter the solvent was eliminated by distillation, and 3,4-diethylamino benzene 4.89 g was obtained (yield: 91.2 %).

(0024)

3-methoxycarbonyl pyridine-2-carboxylic acid 4.62 g (25 mmol) was added to anhydrous benzene 500 ml and thionyl chloride 77 ml and it was reacted for six hours under reflux. The solvent was eliminated by distillation, anhydrous benzene 100 ml was added to the residue, and thionyl chloride was azeotropically-concentrated (three times). Anhydrous benzene 385 ml was added to the residue and dissolution caused, and 3,4-diethylamino benzene 4.5 g (25 mmol) dissolved in dried pyridine 19.2 ml and anhydrous benzene 385 ml was dropwise added to this solution and mixed at room temperature, and it was reacted for three hours under a stream of argon. The reaction liquor was added to iced water 1925 ml, 2 N HCl 77 ml was added and stirred well, and it was extracted three times with ethyl acetate 1.2 l. The organic layer was washed with saturated aqueous sodium chloride solution 1.2 l, thereafter it was dried with magnesium sulfate, and it was concentrated and dried to a solid. The residue was purified by silica gel column chromatography (Fuji silica, BW-820MH, 500 g, eluent ethyl acetate / n-hexane = 1/3), and crude product 7.57 g was obtained. The obtained product was recrystallised from n-hexane / ethyl acetate, and 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid methyl ester 6.35 g was obtained (yield: 81.4 %).

(0025)

6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid methyl ester 6 g (19.2 mmol) was dissolved in methanol 1 l, and 2 N NaOH 200 ml was added and reacted at room temperature for 12 hours. The reaction liquor was added to 0.5 N HCl 1.2 litre and extracted three times with ethyl acetate 1.2 l. The organic layer was washed with saturated aqueous sodium chloride solution 1.2 l, thereafter dried with magnesium sulfate, and solvent was eliminated by distillation. The residue was recrystallised from ethyl acetate / ethanol, and 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid 2.9 g was obtained (yield: 50.7 %).

Straw-coloured needle-like crystal, mp 174-176 degrees.

1H NMR (400 MHz, DMSO-d6, 30 degrees) delta: 10.57 (s, 1H), 9.16 (d, 1H, J = 2 Hz), 8.50 (dd, 1H, J = 2 Hz, 8 Hz), 8.25 (d, J = 8 Hz), 7.71 (d, 1H, J = 2 Hz), 7.67 (dd, 1H, J = 2 Hz, 8 Hz), 7.14 (d, J = 8 Hz), 2.61 (m, 4H), 1.19 (t, 3H, J = 7.5 Hz), 1.16 (t, 3H, J = 7.5 Hz)

Elemental analysis (C17H18N2O3): theoretical value C 68.44; H 6.08; N 9.39, experimental value C 68.70; H 6.11; N 9.41.

(0026)

Example 2.: 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid.

nitromethane solution (60 ml) of acetyl chloride 6.44 g (82.0 mmol) and 1,2-diethylbenzene 9.50 g (70.8 mmol) was added dropwise into nitromethane solution (60 ml) of aluminium chloride (AlCl3) 11.4 g (62.2 mmol) and mixed at 0 degrees over a period of one hour. The reaction liquor was stirred at room temperature for two hours, and it was discharged into iced water 150 ml. Ethyl acetate 150 ml was added to this mixture, it was filtered with celite, and the aqueous layer was extracted with ethyl acetate (100 ml). The ethyl acetate layer was recovered, washed successively with water, saturated aqueous sodium bicarbonate, water and saturated aqueous sodium chloride solution (for each 100 ml), thereafter it was dried with sodium sulfate and the solvent was eliminated by distillation. Vacuum distillation (bp 95 degrees /1.2 mm Hg) was carried out of the residue, and 3,4-diethyl acetophenone 12.0 g was obtained (yield: 96 %).

(0027)

Mixed liquor of 5% NaOCl solution (275 ml) and 25% NaOH solution (33 ml) was added dropwise and mixed to dioxane (160 ml) solution of 3,4-diethyl acetophenone 11.0 g (62 mmol) and it was reacted at 50-60 degrees for two hours. The reaction liquor was cooled and discharged into iced water 1 l, and NaHSO3 was added and thereafter it was adjusted to pH 3 with concentrated hydrochloric acid. This mixture was extracted with ethyl acetate (750 ml, 500 ml). The ethyl acetate layer was washed with water and saturated aqueous sodium chloride solution (for each 500 ml), dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. Obtained crude product 11.0 g was recrystallised from n-hexane 120 ml, and 3,4-diethyl benzoic acid 10.2 g was obtained (yield: 92 %).

(0028)

Thionyl chloride 28 ml was added to anhydrous benzene (200 ml) solution of 3,4-diethyl benzoic acid 6.5 g (36.5 ml) and it was reacted under reflux for five hours. The reaction liquor was concentrated, thereafter it was substituted twice with anhydrous benzene 50 ml and it was concentrated. Dried THF 25 ml was added to the residue and dissolved, and this solution was added

dropwise and mixed at room temperature to dried THF solution (300 ml) of 6-amino nicotinic acid methyl ester 5.55 g (36.5 ml) and triethylamine 4.61 g (4.56 mmol). The reaction liquor was stirred at room temperature for three hours. The reaction liquor was concentrated, and ethyl acetate (150 ml) and water (100 ml) were added. The aqueous layer was extracted with ethyl acetate (50 ml x 2), ethyl acetate layer was washed with water and saturated aqueous sodium chloride solution (100 ml each), it was dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. The residue was purified by silica gel column chromatography (BW-820MH, 300 g, eluent methylene chloride / ethyl acetate = 15/1), and 9.0 g mixture of 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid methyl ester and diamide body was obtained.

(0029)

This mixture was dissolved in methanol (650 ml), concentrated hydrochloric acid (20 ml) was added and it was reacted at 55 degrees for two hours 30 minutes. The reaction liquor was concentrated, saturated aqueous sodium bicarbonate (400 ml) and methylene chloride (200 ml) were added, and the aqueous layer was extracted with methylene chloride (150 ml, 100 ml). The methylene chloride layer was washed with water, dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. The residue was purified by silica gel column chromatography (BW-820MH, 250 g, eluent benzene / acetone = 30/1), and crude product 5.5 g was obtained. This product was recrystallised from n-hexane (100 ml), and 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid methyl ester 4.7 g was obtained (yield: 41 %).

(0030)

6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid methyl ester 4.7 g (15 mmol) was dissolved in methanol (900 ml) and 2 N NaOH 170 ml was added and reacted at room temperature for 12 hours. The reaction liquor was added to 0.5 N HCl (1270 ml) and extracted with ethyl acetate (6 l, 2 l). The organic layer was washed with saturated aqueous sodium chloride solution (2 l), thereafter it was dried with sodium sulfate, and solvent was eliminated by distillation. The residue was recrystallised from chloroform / ethanol = 1/1 (720 ml), and 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid 2.4 g was obtained (yield: 54 %).

Colourless needle-like crystal, mp 294-295 degrees.

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆, 30 degrees) delta: 11.02 (s, 1H), 8.88 (m, 1H), 8.32 (br d, 1H, J = 8 Hz), 8.30 (dd, 1H, J = 2 Hz, 8.8 Hz), 7.88 (d, 1H, J = 2 Hz), 7.82 (dd, 1H, J = 2 Hz, 8 Hz), 7.30 (d, 1H, J = 8 Hz), 2.69 (q, 4H, J = 7.5 Hz), 1.23 (t, 3H, J = 7.5 Hz), 1.19 (t, 3H, J = 7.5 Hz), 1.23 (t, 3H, J = 7.5 Hz), 1.19 (t, 3H, J = 7.5 Hz) z

Elemental analysis (C₁₇H₁₈N₂O₃): theoretical value C 68.44; H 6.08; N 9.39, experimental value C 68.25; H 6.08; N 9.10.

(0031)

Example 3: 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid.

A mixture of 3,5-di-tert-butyl benzoic acid (1,800 mg), thionyl chloride (3 ml) and anhydrous benzene (20 ml) was refluxed for six hours. Solvent and excess thionyl chloride were distilled under reduced pressure. The residue was dissolved in anhydrous benzene (15 ml) and a mixture of 6-amino nicotinic acid methyl (500 mg), triethylamine (3 ml), anhydrous benzene (10 ml) was added and it was reacted at room temperature overnight. The reaction liquor was introduced into water, and extraction was carried out with ethyl acetate. The organic layer was washed with water and dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. The residue was purified by silica gel column chromatography, and a mixture (770 mg) of 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid methyl ester and diacyl body was obtained. This mixture was dissolved in methanol (30 ml), concentrated hydrochloric acid (1 ml) was added and it was refluxed for three hours. The solvent was eliminated by distillation, and methylene chloride and 1 N aqueous sodium bicarbonate were added to the residue. The organic layer was washed with water, dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. The residue was purified by silica gel column chromatography, and 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid methyl ester was obtained.

(0032)

6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) methylnicotinate (93 mg) was dissolved by heating to methanol (10 ml). 2 N NaOH (2 ml) was added, and the reaction liquor was stirred at room temperature overnight. The reaction liquor was acidified by adding 2 N HCl and thereafter solvent was eliminated by distillation. To the residue were added ethyl acetate and water, the organic layer was separated and was washed with saturated aqueous sodium chloride solution, dried with sodium sulfate, and the solvent was eliminated by distillation. The residue was recrystallised from methanol / ethyl acetate, and 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid was obtained.

Colourless prism crystals, mp >300 degrees.

¹H NMR (400 MHz, DMSO-d₆, 30 degrees) delta: 11.27 (s, 1H), 8.89 (d, 1H, J = 2.2 Hz), 8.34 (d, 1H, J = 8.4 Hz), 8.31 (dd, 1H, J = 2 Hz, 8.5 Hz), 7.87 (d, 1H, J = 1.5 Hz), 7.63 (brt, 1H), 1.34 (s, 18H)

Elemental analysis (C₂₁H₂₆N₂O₃): theoretical value C 71.16; H 7.39; N 7.90, experimental value C 71.19; H 7.66; N 7.88.

(0033)

Example 4: 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid.

5-methoxycarbonyl pyridine-2-carboxylic acid (14 g) was dissolved in benzene (120 ml) and thionyl chloride (85 ml) was added, and it was refluxed for four hours. The solvent was eliminated by distillation, anhydrous benzene was added to the residue, thionyl chloride was eliminated by distillation and acid chloride was obtained. Benzene solution of aforesaid acid chloride (170 ml) was dropwise-added at 20 degrees to pyridine (62 ml) - benzene (100 ml) solution of 3,5-di-tert-butyl aniline (14.9 g) and it was reacted for three hours. The reaction liquor was discharged into iced water (120 ml), 1 N HCl (57 ml) was added and it was extracted twice with ethyl acetate (60 ml). The organic layer was washed successively with 0.5 N HCl (150 ml) and saturated aqueous sodium chloride solution (150 ml x twice), and it was dewatered with anhydrous magnesium sulphate. It was treated with activated charcoal (850 mg), and the solvent was eliminated by distillation, and 26.8 g residue was obtained. It was recrystallised from mixed solvent of n-hexane and ethyl acetate, and ester of 22.5 g was obtained.

(0034)

Aforesaid ester was suspended in methanol (280 ml), and 2 N NaOH (125 ml) was added at 20 degrees or less and it was reacted at room temperature for six hours. 1.5 N HCl (150 ml) was added at 20 degrees or less and precipitated crystals were extracted with ethyl acetate 1.5 l. After washing, ethyl acetate was eliminated by distillation and residue was recrystallised from ethyl acetate - ethanol, and 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid 14.7 g was obtained. mp. 288-289.5 degrees.

(0035)

(2) Production Example of topical agent.

Example 1: Toner.

6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	0.05
2-hydroxy -4-methoxybenzo phenone-5-sodium sulphonate	0.1
Acetic acid tocopherol	0.01
Glycerine	4.0
1, 3-butylene glycol	4.0
Ethanol	8.0
Polyoxyethylene (60) hardened castor oil	0.5
Methyl para pen	0.2
Citric acid	0.05
Citric acid soda	0.1

Flavour	0.05
Purified water	balance

(0036)

2-hydroxy-4-methoxybenzo phenone-5-sodium sulphonate, citric acid, citric acid soda, glycerine and 1,3-butylene glycol were dissolved in purified water. Separately, polyoxyethylene (60) hardened castor oil, acetic acid tocopherol, flavour and methyl paraben were dissolved to 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid and ethanol, and this solution was added to aforesaid solution and a toner was obtained by filtration.

(0037)

Example 2: cream.

Cetostearyl alcohol	3.5
Squalane	40.0
Beeswax	3.0
Reduction lanolin	5.0
Ethylparaben	0.3
Polyoxyethylene (20) sorbitan mono palmitate	2.0
Stearic acid monoglyceride	2.0
N-stearoyl sodium glutamate	0.5
2-hydroxy -4-methoxybenzo phenone	0.5
Methoxy cinnamic acid octyl	1.0
Retinol acetate	2.0
Evening primrose oil	0.05
Flavour	0.03
6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid	0.1
1,3-butylene glycol	5.0
Polyethyleneglycol 1500	5.0
Purified water	balance

(0038)

Cetostearyl alcohol, squalane, beeswax, reduction lanolin, ethylparaben, polyoxyethylene (20) sorbitan mono palmitate, stearic acid monoglyceride, N-stearoyl sodium glutamate, 2-hydroxy-4-methoxybenzo phenone, methoxycinnamic acid octyl, retinol acetate, evening primrose oil and 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid were dissolved by heating, and this was added while stirring to purified water together with 1,3-butylene glycol and polyethyleneglycol 1500 which were separately warmed to 75 degrees. It was processed with a homo mixer, the emulsified particles were made fine, thereafter it was rapidly cooled while stirring, and cream was obtained.

(0039)

Example 3: Milky lotion

6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	0.2
Para dimethylaminobenzoic acid -2-ethylhexyl	0.1
Dipara methoxy cinnamic acid mono -2-ethylhexyl	0.2
Stearic acid	1.5
Cetyl alcohol	0.5
Beeswax	2.0
Polyoxyethylene (10) monoolein acid ester	2.0
L-arginine	0.3
L-glutamate Na	0.02
PCA-Na	0.05
Hyaluronate Na	0.01
Propylene glycol	5.0
Glycerine	3.0
Ethanol	3.0
Ethylparaben	0.3
Flavour	0.03
Carboxy vinyl polymer	0.12
Purified water	balance.

(0040)

Flavour was added to ethanol and was dissolved (alcohol phase). On the other hand, L-arginine, L-glutamate Na, PCA-Na, hyaluronate Na, propylene glycol, glycerol, carboxy vinyl polymer were added to purified water and were dissolved by heating, and it was held at 70 degrees (aqueous phase). Furthermore, other components were mixed and dissolved by heating, and it was kept at 70 degrees (oil phase). The oil phase was added to the aqueous phase, preliminary emulsification was carried out, and it was uniformly emulsified with a homo mixer. While stirring this mixture, alcohol phase was added, thereafter it was cooled to 30 degrees while stirring, and a milky lotion was obtained.

(0041)

Example 4: foam mask.

6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide)-nicotinic acid	0.02
4-tert butyl-4'-methoxy-dibenzoyl-methane	0.5
Stearic acid	1.0
Behenic acid	1.0
Self emulsification type monostearic acid glycerol	1.5
Monostearic acid polyoxyethylene (5) glycerol	2.5
Betyl alcohol	1.5
Flavour	0.05
Glycerine	5.0
1,3-butylene glycol	5.0
Polyethyleneglycol 1500	3.0
Methylparaben	0.1
Potassium hydroxide	0.15
Purified water	balance
Liquefied petroleum gas	6.0
Dimethylether	2.0.

(0042)

Glycerol, 1,3-butylene glycol, polyethyleneglycol 1500, methylparaben, potassium hydroxide were added to purified water and dissolved by heating at 70 degrees. Other components except for liquefied petroleum gas and dimethylether were dissolved by heating and added to this solution, it was uniformly mixed, and packed into a container. Finally liquefied petroleum gas and dimethylether were added as propellant, and foam mask was obtained.

(0043)

Example 5: ointment.

6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	0.1
Para dimethylaminobenzoic acid octyl	4.0
Butyl methoxybenzoyl methane	4.0
Tocopheryl acetate	0.5
Palmitic acid retinol	1.0
Stearyl alcohol	18.0
Japan wax	20.0
Polyoxyethylene (10) monoolein acid ester	0.25
Glycerol monostearic acid ester	0.3
Vaseline	32.0
Purified water	balance.

(0044)

Purified water was kept at 70 degrees (aqueous phase), on the other hand, other components were mixed and dissolved at 70 degrees (oil phase). The oil phase was added to aqueous phase, it was uniformly emulsified with a homo mixer, thereafter it was cooled, and ointment was obtained.

(0045)

(3) Test examples.

Example 1: Action on EGF dependent proliferation of fibroblast.

Proliferation of fibroblast whose proliferation is arrested under low serum condition, is dependent on the growth factor, and the proliferation is promoted with addition of EGF, and when retinoic acid is caused to be co-present further proliferation promotion is performed. Therefore the action on EGF dependent proliferation of fibroblast was examined with respect to the component of topical agent of this invention. PDL12 cells obtained by subculturing human skin fibroblast (HF52) was suspended in 5% FBS-DMEM, inoculated to dish of a diameter of 3.5 cm (47,200 /dish), and cultured at 37 degrees for seven hours, and thereafter the medium was replaced with a culture medium in which DMSO or test compound of prescribed concentration was added to 0.25% FBS-DMEM containing 4 nM EGF, and it was cultured for seven days. The DNA quantity of cells was determined by fluorescence method, and proliferation acceleration ratio was determined.

(0046)

The results are shown in Figure 1. The EGF dependent proliferation was promoted by 40-50 % by the co-presence retinoic acid of 10 [power -6] M concentration. Using the EGF dependent proliferation by this retinoic acid as index, retinoid action of aforesaid compound was examined. As

a result, 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid showed proliferation promotion action by 30 % at 10 [power -5] M and by 20 % at 10 [power -6] M, and 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid showed proliferation promotion action of 20 % at 10 [power -6] M.

(0047)

Example 2.: Flattening action of hairless mouse skin surface configuration (hide furrow) by topical application.

By topical application or internal administration of retinoic acid, skin assumes a reddish tinge and is changed to a glossy and transparent state. Utilising that similar phenomenon can be reproduced with hairless mouse, the action of topical agent of this invention was compared with retinoic acid using a quantitative index corresponding to the change thereof. Retinoic acid acetone solution of 0.05 %, 0.025 % and 0.01 %, and each 1 % acetone solutions of 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid, 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid, 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid and 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid shown in Production Examples, and acetone were respectively applied onto hairless mouse for 30 days (5 times / weeks), and replica of skin surface was cast using silicon series resin on the following day of the final application day, and the various kinds of parameters showing the characteristics of skin surface configuration were determined using image analysis apparatus.

(0048)

By repeated application of retinoic acid, the skin changed concentration dependently to a skin with a reddish tinge and gloss, and retinoid skin-like change observed in human, was produced. Hide crest disappeared on replica with respect to this change, and it was regarded as the change that surface became flattened. It is known that the image analysis parameter KSD (dispersion of luminance distribution in KSD = 3.9 mm x 3.9 mm) is correlated to hide furrow depth (contemporary dermatology system • yearly edition 90B), and this value corresponded well with the action of retinoic acid (Table 1). In each case, the compounds obtained with Production Examples produced retinoic acid-like changes, and although weaker than retinoic acid, KSD change was observed. In histological examination, the inflammatory changes (cell infiltration within dermis and epidermis, intercellular • intracellular edema, vasodilation and the like) found in retinoic acid were not observed in any of the test compounds. The clearest change was acanthosis (Table 2)

(0049)

(Table 1)

KSD change (%)

Acetone	89.7%
0.01 % retinoic acid	79.2 %
0.025 % retinoic acid	73.4 %
0.05 % retinoic acid	33.6 %
1 % 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	84.5 %
1 % 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid	83.7 %
1 % 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	78.3 %
1 % 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid	76.9 %

(0050)

(Table 2)

Acanthosis (µm)

Acetone	18 µm
0.01 % retinoic acid	48 µm
1 % 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	22 µm
1 % 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid	21 µm
1 % 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	32 µm
1 % 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid	35 µm

(0051)

Example 3: Action with respect to rhinomouse skin.

On the epidermis of the rhinomouse, egg shaped cysts (utricle) that contain keratin derived from trichocyst are present. This egg shaped cyst is known to shrink due to retinoic acid administration (for example, Ashton, R. E. et al, J. Invest. Dermatol., 82, pp. 632-635, 1984 and the like). The aforesaid action was examined with respect to the compounds shown in Production Examples. Test compound solution of prescribed concentration and carrier 0.1 ml were applied onto dorsal skin of 8 week old female rhinomouse in a frequency of once or twice per day, 5 days per week over two week period. For the purpose of histological evaluation, the dorsal skin was excised, the epidermis was separated from the dermis using 0.5 % acetic acid, and epidermis sheet for light microscopy observation was produced. The image data obtained via CCD camera was analysed, and the area of egg shaped cysts was determined. The results are shown in Table 3. The retinoic acid showed strong skin flare, but skin flare was not observed at all with the compounds shown in Production Examples.

(0052)

(Table 3)

Decrease of egg shaped cysts area (vs carrier, %)

	0.00001 %	0.0001 %	0.001 %	0.01 %	0.1 %	1 %
Retinoic acid	77	59	15			

1% 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	90	87	60
1% 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid	95	89	50
1% 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	80	62	40
<u>1% 6-(3,5-di-tert-butylphenyl carboxamide) nicotinic acid</u>	81	58	30

(0053)

Example 4: Metabolic Test.

One of the reason why the retinoic acid shows toxicity in human, is that the retinoic acid is hard to be metabolised. Therefore, the metabolism of two types of the compounds shown in Production Examples was evaluated by the following method. The test substance which was dissolved in ethanol was added to a buffer containing a specified quantity of rat liver homogenate (25 % homogenate in which rat liver 25 g from which blood was eliminated by irrigation with 0.15 M KCl solution was homogenised with 75 ml phosphate-buffered liquid of pH 7) (final concentration 10 [power -4] M), and the residual quantity of test substance was determined with time by HPLC. The results are shown in Table 4. From the obtained results, it was indicated that the compounds of this invention were readily metabolised in vivo.

(0054)

(Table 4)

Compound	Metabolism in rat liver homogenate	
	Residual quantity after 10 min. (%)	Residual quantity after 60 min. (%)
6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid	65	5.0
6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid	55	3.0

*t = 0 as 100 %

(0055)

Example 5: stability test

Ethanol solution of each compound 300 ppm obtained in Production Examples was irradiated with xenon light for 30 hours, or was stored at 50 degrees two months, thereafter the residual quantity was determined by HPLC. As a result, all the compound was confirmed to be remaining by 95 % or more. On the other hand, retinoic acid was rapidly decomposed under the same conditions.

(0056)

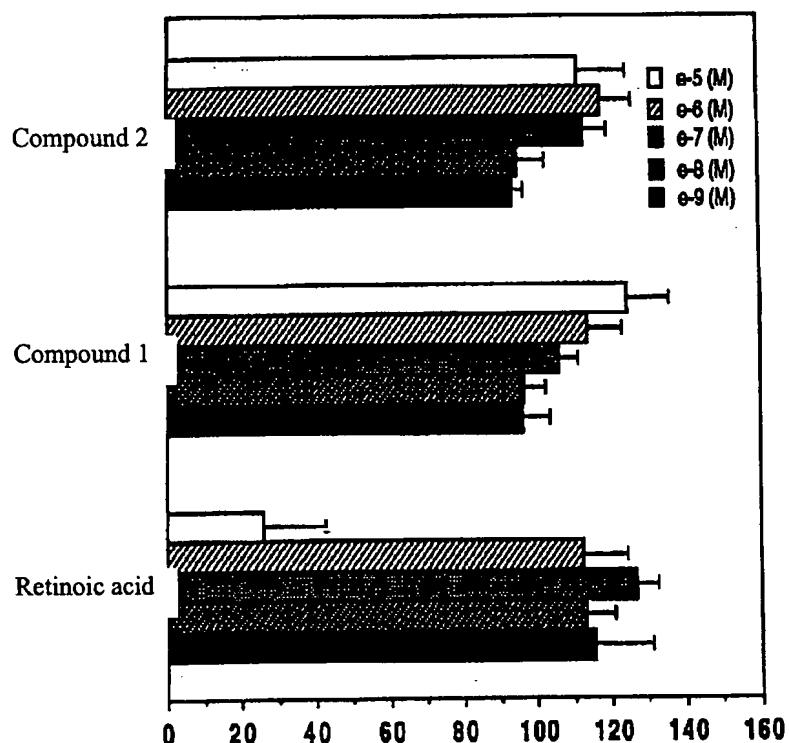
(Advantages Afforded by this Invention)

The compound of aforesaid formula which is a component of topical agent of this invention has excellent skin deterioration prevention action, and, in addition, it is stable, percutaneous absorption is small, and safety is high. Moreover, even when absorbed in body, it is readily metabolised, therefore, there is a characteristic that side effect due to retinoid action is not caused.

(Brief Description of the Figures)

(Figure 1) It is a figure showing the action of representative compounds contained in topical agent of this invention on the EGF dependent proliferation of fibroblast. Compound 1 in figure shows 6-(3,4-diethylphenyl carbamoyl) nicotinic acid, and compound 2 shows 6-(3,4-diethylphenyl carboxamide) nicotinic acid.

(Figure 1)



Rising Sun Communications Ltd. Terms and Conditions

Rising Sun Communications Ltd. shall not in any circumstances be liable or responsible for the accuracy or completeness of any translation unless such an undertaking has been given and authorised by Rising Sun Communications Ltd. in writing beforehand. More particularly, Rising Sun Communications Ltd. shall not in any circumstances be liable for any direct, indirect, consequential or financial loss or loss of profit resulting directly or indirectly from the use of any translation or consultation services by the customer.

Rising Sun Communications Ltd. retains the copyright to all of its' translation products unless expressly agreed in writing to the contrary. The original buyer is permitted to reproduce copies of a translation for their own corporate use, however publication in written or electronic format for resale or other dissemination to a wider audience is strictly forbidden unless by prior written agreement.